



chikap ノー卜

2024 December



2024年のchikapは、10年かけてようやく身に染み付いてきたチーズというアイテムを生かし、工房を飛び出して地域の活動に力を入れた一年でした。（私たちの住んでいる地域は「厚床（あつこ）」という根室の一番西側の地区になります。小中学校の学区は、根室市の約1/3強の面積を占める広い酪農地帯です。）昨年から厚床のイベントに積極的に関わるようになったことで、地域の人とのつながりがより深くなり、厚床で暮らすことの意味や、自分たちが厚床のためにできることはなんだろう？何かやりたい！という気持ちがどんどんと増してきました。

夏のイベントでは、初めて手作りピザを振舞いました。このイベントのためにモッツアレラチーズを作り、ピザ生地を2日前から仕込み、当日は釜を軽トラに積んでの出張ピザでした。美味しそうにピザを食べる子どもたちや、ピザ作り体験を楽しんでいる地域の人たちを見て、これぞマイパブリック！（「私的」な力でつくりあげる「公的」な施設やコミュニティ『マイパブリックとグランドレベル』著者 田中元子さんの造語）と、とてもワクワクしたのを覚えています。「普段はうちの子チーズ食べないのに、何枚もピザ食べてた！」と驚きながら話してくれた人もいました。普段とは異なる環境で、友達と食べるピザはとっても美味しかったんだろうな、と想像しました。こんなふうに、いつもと違う、ちょっと特別な体験を地域の人たちとこの先も共有していきたいなと強く思いました。

厚床小学校への出前授業にも初めて行ってきました。子どもが少ない地域なので、ギャラリーの先生方のほうが多かったのですが、子どもも大人も興味津々にキラキラした目でチーズの話聞いて反応を返してくれる姿に、教える側の私たちが誰よりも楽しんでいたいと思います。貴重な機会を作ってくださった先生方には感謝でいっぱいです。

また、今年は根室市の10年に一度の「根室市総合計画」策定のための「まちづくり市民会議」にも参加しました。全6回の討議の中で、色んな方の今抱えている課題や問題を知ることができましし、私にとってはとても学びの多い半年間でした。

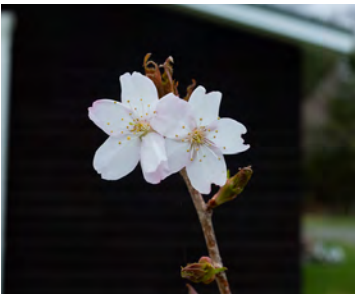
工房から地域に飛び出して活動をするようになったことで、子どもたちともう少し深く関わっていききたいという気持ちも強くなり、子育て支援員の資格も取得しました。2025年も、何かこの資格を生かせるような活動ができるよう、私たちの強みであるチーズを生かしながら引き続き地域に出ていきたいと思います。



子どもの成長日記

3月に初めてピアノの発表会に参加しました。出番直前に寝てしまうというハプニングもありましたが、大きなステージの上で堂々と歌い、演奏していました。昨年まで乗り回していたストライ

ダーは、ついにペダルデビュー！あっという間に立ち漕ぎまでできるようになり、日々の散歩も距離が伸びて、親も子も楽しい日々を過ごしています。



chikapの森

一昨年植えた苗木は、今年の寒い冬も無事に越え、春には桜の花を二輪咲かせました。害獣対策用の保護カバーの上から、ひょろりと出た枝先につけた可愛い二輪の花。見つけた時は、なんとも言えない喜びでした。そのほかの苗木も、夏の間にぐんぐんと成長し、中にはゆうに2mを超えるものも。大きくなった苗木は保護カバーの中で葉が窮屈そうにしていたので、春の終わりにカバーを外すことに。お日様いっぱい浴びれていいね～と思っていましたが、カバーの中で大切に大切に育てられた苗木たち。出てきた幹はヒョロ～っとしていて何だか頼りない…。ふとある日、あれ？あるべきはずの場所に苗木がない？？慌てて駆け寄ると、強風にやられて幹の根元からぐいーんと曲がった苗木たち…。支柱をつけるも、根室の強風はなかなか手強く、ぽきっと枝が折れてしまうことも多々。今年は冬を無事に越せるのでしょうか…？

chikapの食べ方

リンゴとシマエナガ

白カビタイプの代表でもあるカマンベールが作られるノルマンディ地方は、リンゴの産地でもあり、シードルやカルヴァドスといったリンゴのお酒が作られています。チーズのペアリングとして同郷のものを合わせるのは定番で、それらのお酒と合わせて食べるカマンベールはとっても美味しいです。白カビタイプのシマエナガも同じように、リンゴのお酒と合わせたり、生のリンゴと合わせて食べるととっても美味しいので、ぜひ試してみてください。



霧多布岬（湯沸岬）

各地に温泉がある北海道ですが、私たちの住む根室には残念ながらありません。温泉に入りたいときは、車を走らせて隣のまちの浜中町へ行きます。その温泉の近くの霧多布（きりたっぶ）岬には、数年前からラッコが観察できるようになり、2018年には子どもが生まれたことで「日本初の繁殖地」として話題になりました。高い崖の上から海の上にぶかぶか浮いているラッコを観察できるのですが、肉眼だと「丸太が浮いている？」というくらい遠いところにいるので、双眼鏡は必須です。赤ちゃんラッコがお腹の上に乗っている姿や、海藻を巻きつけている姿、海面で身体をクルクルンと回転させる姿などなど、とても愛らしい姿を見ることがができます。すっかり有名になってしまったので、いつ行ってもたくさんの人が訪れていますが、人と動物がしっかりと距離を取れる場所なので、警戒されることなくじっくりラッコを観察することができます。また、霧多布から根室にかけて伸びる北太平洋シーサイドラインの海岸線の景色も本当に素晴らしいので、こちらもぜひ合わせてドライブしてみてください。（表紙の写真も霧多布岬です）



野鳥観察日記

毎年9月末から10月中旬にかけて工房のある川口では、全国各地から鳥類標識調査員（バンダー）が集まり、鳥類標識調査（バンディング）が行われます。調査地から一番近いお店、そして鳥の名前がついているということで、オープンしたばかりの頃からバンダーさんが立ち寄ってくださり、ご厚意で毎年調査を見学させてもらっています。その調査で一番多く標識（足環）をつけるのが、アオジ。沢山のアオジを見せてもらったおかげで、ようやくオスとメスの違いは分かるようになってきたかも？（調査用のかすみ網→）



アオジ Black-faced bunting file 10
スズメ目ホオジロ科
全道に広く分布する最も身近な鳥のひとつ。国後島、択捉島、色丹島で数多く繁殖。春と秋には、北方圏を繁殖域とする膨大な数の本種が道内を通過していく。（北海道野鳥図鑑,2003,p116）